

医学系研究科 医科学専攻

学位プログラム： 公衆衛生学

授与する学位： 修士（公衆衛生学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科の教育目標をもとに、学位プログラム「公衆衛生学プログラム」では以下のとおり教育目標を定めています。

公衆衛生学は、社会の人々の健康を増進し、疾病の負担を軽減し、健康水準の格差を是正し、地域、国、地球レベルの健康への脅威に対処するため組織的な活動を実践・評価する学問です。履修対象は、医師だけでなく、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、理学療法士、作業療法士、検査技師、自然科学、人文社会科学等の幅広い範囲の職種や学士の人々になります。

21世紀に入り、国内はもとより世界的に複雑化する健康医療問題の解決のためには、従来の健康・医療に関する知識・技能のみで対応することは困難であり、疫学、環境科学、社会科学、経済・経営学、法律学、倫理学、政策学など多面的かつ広い視点からアプローチする必要があります。そのため、健康、医療の諸問題に柔軟に対処できる知識、技能、倫理観、デザイン力、コミュニケーション力、国際性、そしてそれらに裏づけられた研究能力の涵養が求められています。

学位プログラム「公衆衛生学」では、医学系研究科の教育目標を受けて、世界の公衆衛生学界をリードし、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、自立して研究活動や実践活動を行うに必要な知識、技能とその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、最先端の公衆衛生学の推進、及び、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材の育成を目指します。

そのため、公衆衛生学分野の研究者のみならず、公衆衛生行政機関、公衆衛生関連の企業・シンクタンク、国際機関等で働く人材の育成や、行政機関の医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、栄養士、理学療法士、作業療法士、検査技師等の専門職の格段の能力向上に貢献できる、次のような人材を輩出することを教育目標としています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を有する人材。
- ・最先端の公衆衛生学の知識と技能を有する人材。

○高度な教養

- ・最先端の公衆衛生学の推進、及び人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養を兼ね備えた人材。

○高度な国際性

- ・国際的な視野を持ち、世界の公衆衛生学界をリードする人材。

○高度なデザイン力

- ・世界で起こる公衆衛生学や公衆衛生学を取り巻く多様な領域の課題を発見し、公衆衛生学の知識と自然科学、社会科学等の方法論によりアプローチし解決できる人材。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「公衆衛生学プログラム」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「公衆衛生学」では、教育目標に定める人材を育成するため、2年以上在学して31単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に修士（公衆衛生学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・最先端の医学研究に裏付けられた公衆衛生学の深い知識を有している。

○高度な教養

- ・公衆衛生学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、幅広い医学領域の知識を身につけている。
- ・物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・自国と他国の文化、制度、社会経済状況、習慣等を理解した上で、グローバルに活躍する能力を身につけている。

○高度なデザイン力

- ・医学や医学を取り巻く多様な領域の課題を発見する能力を身につけ、公衆衛生学の知識と自然科学や人文・社会科学等の方法論により、健康に関する諸課題を解決する能力を身につけている。
- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。
- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「公衆衛生学プログラム」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

<教育課程編成の考え方>

学位プログラム「公衆衛生学プログラム」では、医学、生命科学、および医療に関する授業科目に加えて、医学や医学を取り巻く多様な領域の課題を発見する能力を涵養するための高度教養教育、及びグローバルに活躍する基礎能力を涵養するための国際性涵養教育など、授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業と優れた研究指導を行います。

<学修内容及び学修方法>

- ・幅広い医学の基礎知識を身につけるための講義「医科学概論」を必修科目として学修します。
- ・幅広い医学領域の知識を身につけるための講義・演習「医科学特論」を必修科目として学修します。
- ・医学や医学を取り巻く多様な領域の課題を発見する能力を身につけるための演習を必修科目として学修します。
- ・医科学、公衆衛生学の知識と自然科学、社会科学等の方法論により課題を解決する能力を身につけるため、配属された研究室での指導教員による研究指導を必修科目として学修します。
- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけるための演習を必修科目として学修します。
- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけるための演習を必修科目として学修します。
- ・自国と他国の文化や習慣等を理解した上で、グローバルに活躍する能力を身につけるため、研究科内のみならず、国内外のエキスパートを講師とした国際性涵養教養科目を選択必修科目として学修します。
- ・公衆衛生学分野の研究フィールドでの実践的な研究能力を身に着けるための実習を選択必修科目として学修します。

<学修成果の評価方法>

- ・学修の成果については、シラバスに記載された学習目標を試験、レポートにより、その達成度を評価します。
- ・修士学位論文の審査については、論文内容、研究発表能力、質疑応答能力を、公正且つ厳格に評価します。

学位プログラムにおけるカリキュラムマップ（修士課程 公衆衛生学プログラム）

	性 と 識 深 い 学 門 つ	高 度 先 端 な 専 門 性	高 度 性 な 教 養	高 度 性 な 国 際	高 イ ン テ ル ナ シ ョ ナ ル カ ラ ク タ ー	1年				2年			
						春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
最先端の医学研究に裏付けられた公衆衛生学の深い知識を有している。	○					医科学概論Ⅰ,Ⅱ			人体系統解剖学実習				
公衆衛生学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、幅広い医学領域の知識を身につけている。		○											
物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。		○											
医学や医学を取り巻く多様な領域の課題を発見する能力を身につけ、公衆衛生学の知識と自然科学や人文・社会科学等の方法論により課題を解決する能力を身につけている。	○				○	高度教養教育科目							
身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。					○	公衆衛生学セミナーⅠ	公衆衛生学セミナーⅡ		公衆衛生学セミナーⅢ		公衆衛生学セミナーⅣ		
自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。					○								
自国と他国の文化や習慣等を理解した上で、グローバルに活躍する能力を身につけている。			○				疫学各論 国際健康政策学 国際感染症学	グローバルヘルス学総論		疫学各論 国際健康政策学 国際感染症学		グローバルヘルス学総論	

 必修科目

 選択必修科目

 高度教養教育科目

 高度国際性涵養教育科目